

令和4年度第1回県土整備政策会議開催結果

県土整備部が行う社会資本整備や良好な生活環境の整備などの様々な政策に関して、学識経験者等からオープンに意見をいただく場として、県土整備政策会議を設置しており、以下のとおり、令和4年度第1回会議を開催しました。

1 日時 令和4年7月25日（月）午後2時00分から午後4時15分まで

2 場所 県庁講堂棟 131・132会議室

3 出席者

（委員） ※別紙委員名簿のとおり

（県土整備部） 県土整備部副部長（公共事業総合政策担当）、防砂防課長、
施設災害対策課長、住宅政策課長 他

4 議題と委員意見の概要

下記の議題について担当課長からプレゼンを行い、各委員からご意見・ご提案をいただきました。

（1）土砂災害人的被害「ゼロ」を目指す

豪雨などの異常気象時における気象情報の提供の仕組みや土砂災害に関する啓発活動の現状と課題を説明し、避難につながる情報発信や土砂災害に対する危機意識の醸成に向けた取組をどのように進めるべきかについて意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・気象情報に関するリアルタイムの生データは、研究者や河川の状況を詳しく見ている人でないと活用できないと思うので、例えば、数時間後にどうなるのかという予測の情報がわかるシステムがあればよい。
- ・地域住民が集まるスーパーやコンビニなどで気象情報を流せるようにしてはどうか。ローカルな情報が、よりタイムリーに、見せたい人に提供できるのではないか。
- ・地域に伝わる土砂災害や回避行動のアーカイブ化は、みえ防災・減災センターでも取り組んでいるので、そこに追加する形で取組を進めてはどうか。
- ・防災や災害の情報システムについては、学校の授業を活用して周知することが効果的だと思う。子どもを通じて家族にも広がるのではないか。
- ・自治会や地域の高齢者の集いなどで、県が防災対策の啓発活動を行っているが、その中で土砂災害についても周知してはどうか。
- ・土砂災害警戒区域等に住んでいる住民の認識について調査を実施して把握してはどうか。住民の現状認識にばらつきがあるのではないか。

- ・自分が危険な場所に住んでいるということがわかっていないと興味を持ってもらえない。電柱等にある海拔表示とあわせて土砂災害が起きやすい地域であることを表示したり、気象情報や予測情報のページにつながる QR コードを表示してはどうか。
- ・既に多くに人が利用している LINE を活用した情報提供を検討してはどうか。家族間での情報共有でも使われていることも多く、最もアクセスしやすいツールではないか。

(2) インフラ施設の被災情報の収集について

風水害等によるインフラ施設の被災情報の収集に関する現状と課題を説明し、迅速な災害対応により県民の皆さんの生命、財産を守るため、必要な被災情報をタイムリーに収集できる仕組みづくりについて意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・既に社会インフラの一つになっている LINE や Twitter などを情報収集のツールとして活用すると良いのではないかと（例えば、Twitter のハッシュタグを利用するなど）。専用アプリは使いやすところはあるが、定期的なメンテナンスにもかなりのコストがかかると思う。
- ・情報収集では、情報の真贋について把握することが難しいのではないかと。緊急時に情報の真意を確認する人員を割くことができるのか。市町から情報が上がってくる方が早く対応できるのではないかと。
- ・災害が起こりそうなどころには予防保全対策について検討を始めてもらえるとうい。
- ・緊急時の情報収集については、とにかく現場に行き確認するという考え方から、二次被害防止のためにパトロールには行くべきではないという考え方に変ってきている。何かの役に立つとして可能な限りで活動してもらい範囲に留め、決して無理強いはしないという方向性で進めた方が良いのではないかと。
- ・災害時にだけ、情報をもらおうというのは難しい。平常時から距離を縮められるような関係性を構築しておくことが必要ではないかと。
- ・「全ての県民が災害を自分事として捉える社会づくり」のためには、教育が大事。若い世代の方から時間をかけて取組を進めていくことが必要ではないかと。

(3) 「ナッジ」を活用した効果的な家賃収納に向けて

県営住宅の家賃滞納の現状と、行動経済学の考え方に基づく手法である「ナッジ」（選択の自由を残したうえで、より良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法）の行政分野での活用事例等を説明し、家賃収納業務における「ナッジ」の効果的な活用方法について意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・自分なら知っている人から指摘されると家賃を払おうと思うので、滞納すると連帯保証人の方に迷惑がかかるということを先に知らせておく文章が良い。
- ・家賃を滞納すると、団地の維持修繕費をカットせざるを得なくなる可能性があるということを知らせておくと、自分のせいで地域全体に迷惑をかけると感じるかもしれない。逆に家賃収納率が高いところに関しては、お礼とおかげでこういことができましたという文章にすると、入居者のモチベーションがより高まるかもしれない。
- ・家賃滞納による本人の損失を最初にお知らせしてはどうか。段階的にお知らせする必要はあまりないと思う。滞納をすると県営住宅を退去しなければならないことや、滞納を繰り返すと今後公営住宅に入居できなくなる可能性があるといったペナルティを早い段階で知らせるべきではないか。
- ・イギリスの例のように、例えば「99.1%の人がきちんと家賃を払っています」という文章を入れるなど、周囲の収納状況をしっかり伝えるようにしてはどうか。
- ・お知らせすべき内容として、他人に迷惑がかかるということ、自分にデメリットがあるということの2つの方向がある。長期間の滞納者は、他人への迷惑をあまり考えない可能性があるため、自分にどのようなデメリットがあるかを伝え、短期間の滞納者には他人に迷惑がかかるということを伝えることが有効ではないか。
- ・まずは滞納者の年齢、性別、滞納理由などをしっかり分析することを優先して行うべきではないか。それを踏まえたうえで、家賃を滞納することで入居者にどのような不利益が生じるのかを早い段階で示すべきではないか。
- ・家賃を滞納すると県営住宅から退去しないといけないことを前面にアピールする文章が良いのではないか。
- ・例示の文章は、よく考えられており、納得性のあるものだと思う。何回かテストを繰り返しながら、より良い文章を作っていくのが良いのではないか。
- ・支払日をうっかり忘れてしまうこともあるのではないか。ポスターなどで支払日を分かりやすくお知らせするのも良いのではないか。

5 その他

報告事項として、令和3年度三重県県土整備政策会議での意見の反映状況について説明を行いました。

今回いただいたご意見については、十分な検討を行い、取り入れることができるものについては積極的に取り入れ、事業推進をはかってまいります。

【会議の様子】



令和4年度第1回三重県県土整備政策会議 出席委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属・職名	備考
岡島 賢治	三重大学大学院生物資源学研究科 教授	
清水 良保	株式会社久志本組 代表取締役社長	
下野 幸助	三重県議会議員	
鈴木 宙	三重大学生物資源学部 4年生	
竹田 佳彦	中日新聞三重総局 記者	
坪井 あづさ	株式会社エイゼットソリューション	
安岡 優	株式会社百五総合研究所 主任研究員	Web 参加
吉田 楓	三重大学生物資源学部 4年生	